

もも・ネクタリン特報 ①

R3. 3. 2
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

本年も暖冬傾向のため生育は、平年に比べて5日程度早まる見込みです。生育の進みが早まるほど凍霜害遭遇の危険性が高まります。凍霜害対策は早めに行ってください。また、凍霜害により結実が心配される川中島白桃等では、必ず人工授粉を徹底して下さい。第1回目の防除に向けて、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等を進めて下さい。

次面には凍害対策、苗木の植え付け、摘蕾など記載

(参考：過去4カ年の発芽日、平岡地区)

白 鳳	平年	R3 (予想)	R2	R1	H30	H29
発芽日	4/2	3/25?頃	3/22	3/31	3/29	4/7



【休眠期（発芽前）の散布】＊もも・ネクタリン共通

- ◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。
特に、縮葉病は薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は、樹全体に薬液がかかるよう、丁寧に散布しましょう。
- ◎キンセツ水和剤 80 体系と石灰硫黄合剤体系の2体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

①キンセツ水和剤 80 体系

散布日	月	日
散布量		リットル

散布時期：発芽前(3月中旬～中下旬)

散布薬剤	水	9 8 リットル当り
	スプレーオイル	2 リットル
	アプロードフロアブル	1 0 0 ml
	キンセツ水和剤 80	1 0 0 g

対象病害虫：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類

散布量：10 アール当り 300 リットル

混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ アプロードフロアブル ⇒ キンセツ水和剤 80

【注意事項】（農薬使用基準）

- ①アプロードフロアブル：もも⇒（14 日前、3 回） ネクタリン⇒（7 日前、2 回）
②キンセツ水和剤 80：もも⇒開花直前まで（但し収穫 60 日前、5 回）
：ネクタリン⇒（開花直前、5 回）

②石灰硫黄合剤 体系

散布日	月	日
散布量		リットル

散布時期：発芽前(3月中旬～中下旬)

散布薬剤	水	9 0 リットル当り
	展着剤	1 0 ml
	石灰硫黄合剤	1 0 リットル

対象病害虫：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類

散布量：10 アール当り 300 リットル

混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤

【注意事項】

- ① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイルの 50 倍を加用する。（アプロードフロアブルは混用不可）
② 石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① カイガラムシ類の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。（または、被害枝を切除する）
- ② せん孔細菌病発生園は、開花 5 ～ 7 日前にキンセツ水和剤 80 の 1, 000 倍を特別散布する。
＊枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、フェニックスフロアブルの 500 倍（開花期まで、1 回）を樹幹部に散布、または、ガットサイド S1.5 倍液（もも 30 日前、1 回。ネクタリン使用不可）を樹幹部に塗布する。

次回特報発行予定：3 月 17 日(水) 内容：開花前の薬剤散布

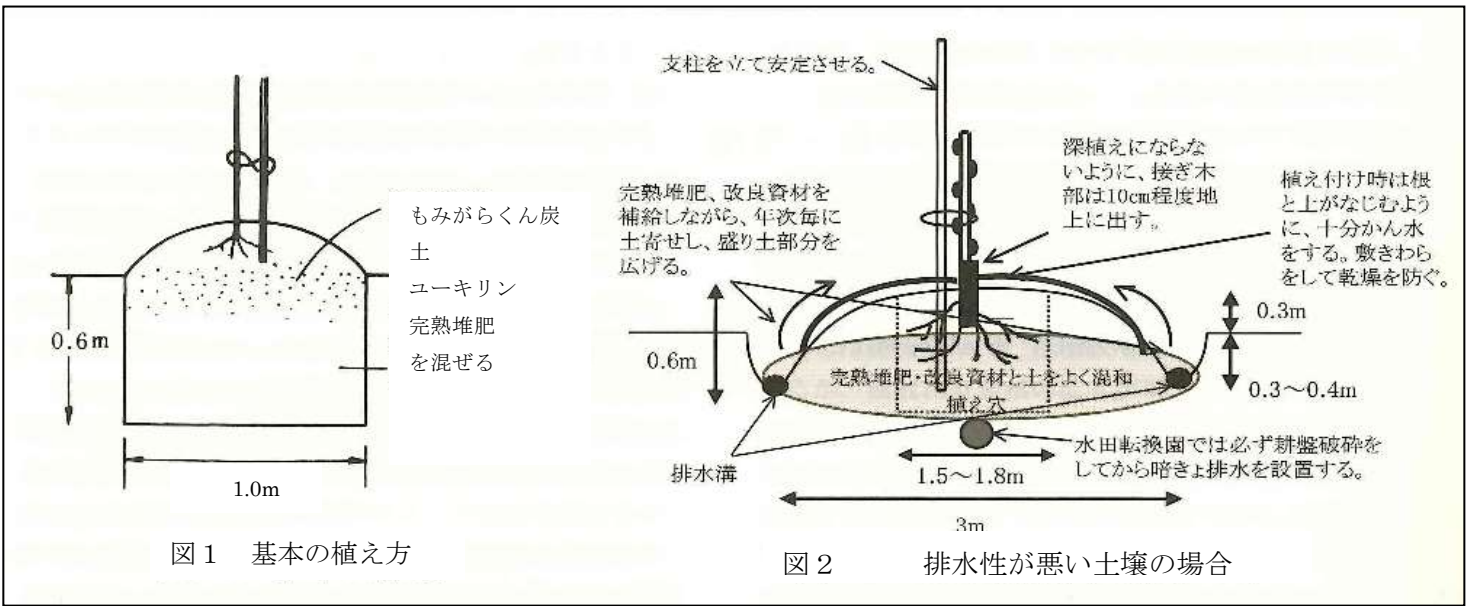
【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発園地では、以下の事項にご注意ください。

- ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）
*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるが、本年は生育が早まると予想され、特に凍害発生が心配されるため、稲わら等の除去を遅らせる。
- ②排水性の悪い園地では、暗きよや明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。（定植方法は下記参照）
- ③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等の導入を検討する。

【苗木の植え付けについて】

- ①植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。
*ユーキリン(20kg：3,900円)、もみがらくん炭(30ℓ：510円)、エアープイント(18kg：550円)は、営農センターにて取り扱っております。
- ②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）
- ③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。
太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。
- ④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。
- ⑤苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。
- ⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



【摘蕾】：昨年凍霜害の被害にあった園地では、生産量確保に向けて摘蕾を控えるか軽くする。

時期：3月下旬～4月上旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）
遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾の方法

- ①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ②真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。
- ③結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。

